紀尾井だより

1/2 January / February 2023 [Vol.157]

KCOに指揮デビュー
マクシム・パスカル

忘れられない、見たかった、「あの」邦楽公演をオンデマンドで！

連載
邦楽名曲解体新書 私のおすすめこの一曲［最終回］
一中節『辰巳の四季』

クラシック音楽のテーマに基づく3つの話
プロコフィエフをめぐる3話

紀尾井ホール

©Più Luce per Orchestra Rai

Featured Artist

KCOに指揮デビュー

マクシム・パスカル

紀尾井ホール室内管弦楽団（KCO）の2022年度は新首席指揮者就任と同時に、いま注目を集める指揮者2名が初登場する年だ。ひとりは7月の第131回定期で日本デビューしたアントネッロ・マナコルダ。そしてもうひとりが23年2月の第133回定期を指揮するマクシム・パスカルである。

マクシム・パスカルのキャリアづくりやレパートリーはまさに〝ユニーク〟。その活躍は学生時代に遡る。ピアノやヴァイオリンを学んだ後、2005年にパリ音楽院に入学し、作曲、楽曲分析、オーケストレーションを学び始めるも、指揮の素養を必要と感じフランソワ＝グザヴィエ・ロトに師事。そして在学中の08年、同音楽院在学中の友人とアンサンブル『ル・バルコン』を結成し、活動を開始した（この団体名はジャン・ジュネの戯曲に基づく）。在学中にアンサンブルを組むのはとりわけ珍しくもなくごく普通のこと。しかしそのメンバー構成が濃い。演奏者だけでなく、3名の作曲家やサウンド・エンジニアらをも含んでおり、先進的な音響・照明システムを取り入れるなど実験的で刺激的な活動に取り組んだのだった。さすがにこの当時は彼らの話題が遠い日本に届くことはなかったが、13年アテネで《ナクソス島のアリアドネ》や、14年にエトヴェシュの《ル・バルコン》などを上演した頃からちらほらと情報が入ってくるようになった。

日本でまだごく一部とはいえ初めてその名が認識されるようになったのは、やはりメッツマッハーが審査員を務めた2014年のネスレ・ザルツブルク音楽祭ヤング・コンダクターズ・アワードを受賞した時だろう。この時にカメラータ・ザルツブルクと共演、次いで8月には同賞の副賞としてグスタフ・マーラー・ユーゲント管弦楽団と共演しザルツブルク音楽祭へのデビューを果たし、一気に活動が広がっていった。ザルツにデビューしたところでこちらも特に〝ユニーク〟なことではないが、パスカルはプログラムのセレクトで個性を発揮した。このカメラータ・ザルツブルクとの共演でモーツァルトとラヴェルに合わせたのが、

©Ava du Parc

シュトックハウゼン《光 Licht》の《金曜日》カーテンコール（2022年11月パリ）。当公演には12月15日「明日への扉」に出演した湯川亜也子さんも参加。

今やパスカルの代名詞にもなってきたシュトックハウゼンだ。ザルツ再登場の17年はウィーン放送響を指揮しグリゼー、同じ年の冬にはスカラ座でシャリーノの新作オペラの世界初演、さらに本格的にシュトックハウゼンの7作からなる大連作オペラ《光》ツィクルスに取り組み始めるといった具合で、この頃はいわゆる一般的なオーケストラ・コンサートを指揮するのをなかなか聴けなかったくらいである。

2016年のベルリオーズ音楽祭で演奏・録音された《幻想交響曲》もユニークだった。若手指揮者が試金石として《幻想》を指揮するのはよくあることだが、パスカルは違った。同音楽祭の委嘱で仲間のアルチュール・ラヴァンディエが、弦管（含ホルン）各パート1名（ヴィオラと金管、サクソフォーンは複数）にピアノやMIDIキーボード、エレキギターなどによる室内オーケストラ用に編曲した版を採り上げ、驚かせたのだ。翌17年サン＝ドニ音楽祭でもル・バルコンのホルニストであるジョエル・ラスリがアレンジした室内オケ版マーラー交響曲第7番を採り上げていた。

このようなパスカルは現在もスタイルを変えず、ル・バルコンとはバッハからシュトックハウゼン、オペラなど様々な作品を演奏し、客演オーケストラでは比較的〝一般的な〟レパートリーを手掛け、今ではすべてのジャンルでその地位を確立しつつある（さらにはパリのノンプロ・オケ「アンプロンチュ」の音楽監督として、若き音楽家や音楽愛好家たちの育成にも力を注いでいる）。

© Marco Borggreve
ニコラ・アルトシュテット

パスカルと日本
～初の14日間待機をした指揮者

パスカルが初めて日本を訪れたのは2017年、オーレリー・デュポンやジェルマン・ルーヴェ出演で沸いたパリ・オペラ座バレエ団の来日公演で、東京フィルを指揮し日本デビューした。続いて19年の《金閣寺》と20年1月のオーケストラ・アンサンブル金沢、そしてコロナ禍となったこの年の12月には外国人アーティストとしてほぼ初となる14日間隔離待機をして読売日本交響楽団と名古屋フィルハーモニー交響楽団を指揮。さらに東京二期会の要請に応え、そのまま滞在を延長し21年1月の《サムソンとデリラ》の代役を務め成功に導き、そのまま定期的に来日するようになっている。

パスカルと紀尾井ホール

実はパスカルは2019年2月、《金閣寺》公演で来日中に紀尾井ホールを訪れている。というのもこの時すでにKCO客演の話が決まっていたためだ。踊るように指揮しながら音色と造形にこだわりを見せるパスカル。その東京でのシンフォニー・コンサート・デビューをKCOとの舞台で飾ってもらうはずだったが、残念ながら新型コロナウイルス感染症の影響で中止となってしまった。この第133回定期は、その時の計画が4年半越しでようやく実現するというわけである。実現が延びたために、不幸中の幸いとして、ニコラ・アルトシュテットが共演として加わることとなった。クレーメルがロッケンハウス音楽祭の後継者に選び、サロネンには新作を任されるなど、アルトシュテットも、いま最もアグレッシヴかつクリエイティヴな活動をしている音楽家のひとりである。才人2名のKCOデビューと、彼らとの共演でまた新たな顔を見せるKCOにご期待いただきたい。

文／松本 學（制作部プロデューサー）

ラヴァンディエ版《幻想交響曲》CD

ザルツブルク音楽祭デビュー時のライヴCD（非売品）

紀尾井ホール室内管弦楽団
第133回定期演奏会

［出演者］
マクシム・パスカル（指揮）
ニコラ・アルトシュテット（チェロ）

2/10（金）19:00　2/11（土）14:00

［曲目］
フォーレ　：組曲《マスクとベルガマスク》op.112 ＋ パヴァーヌ op.50
ショスタコーヴィチ：チェロ協奏曲第1番変ホ長調 op.107
ベートーヴェン　：交響曲第4番変ロ長調 op.60

※公演開催についての最新情報は紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

2023年度シーズン・メンバー

日本製鉄文化財団は若手演奏家の育成支援制度として「紀尾井ホール室内管弦楽団シーズン・メンバー」を設置しています。2023年度も3名が1年間定期演奏会に参加します。

橘和 美優（ヴァイオリン）

登坂 理利子（ヴァイオリン）

岡田 桃佳（ヴィオラ）

紀尾井ホール室内管弦楽団（KCO）新メンバーが入団

10月1日付でヴァイオリンの城戸かれん、ホルンの勝俣泰がKCOメンバーとして仲間入りしました。既に活躍中の二人、KCOにまた新たな風を吹き込んでくれることでしょう。どうぞご期待を！

© Junichiro Matsuo
城戸 かれん（ヴァイオリン）

勝俣 泰（ホルン）

忘れられない、見たかった、

「あの」邦楽公演をオンデマンドで！

有料配信

日本製鉄文化財団・紀尾井ホールでは2021年7月から、過去の邦楽の主催公演3シリーズ・28公演分をご視聴いただける有料サービス（2013年から2018年の公演（一部抜粋あり））を開始しています。音楽のききどころや作品の時代背景の解説、演奏家のお話を交えた座談会、また邦楽の技の秘密が明かされるなど、何度観ても新たな発見があるたいへん充実した動画です。2023年1月からは新たに2シリーズ・5公演が加わります。ぜひ、この機会に視聴をご検討ください！

2023年1月、新たに加わる5公演

音楽でつづる文学 1

平家物語 ― 高倉天皇と小督 ― ［公演日 2019年5月20日（月）］

「祇園精舎の鐘の声……」という冒頭で知られる、鎌倉時代に成立した平家の栄華と没落を描いた軍記物語「平家物語」は、琵琶法師によって音に乗せて津々浦々で語られました。後世の芸術にも様々な影響を与え、数多くの名曲が生まれました。「高倉天皇と小督」では、後白河天皇第7皇子として8歳で即位し、21歳の若さで亡くなった高倉天皇と、その寵姫となる美貌で箏の名手、小督との悲恋が題材となった曲をお楽しみいただきます。

音楽でつづる文学 2

平家物語 ― 竹生島 ― ［公演日 2019年9月5日（木）］

後世の芸術に様々な影響を与えてきた軍記物語「平家物語」。その巻七《竹生島詣》の主人公は、清盛公の甥の平経正です。彼は詩歌・管弦にたけた風流人で琵琶の名手。木曽義仲討伐のために北陸へ向かうに際し、琵琶湖上の竹生島で戦勝祈願を行います。経正の素晴らしい琵琶の音に白竜も現れるという、つかの間のお話です。

紀尾井たっぷり名曲 1

義太夫 一谷嫩軍記 熊谷陣屋の段 ［公演日 2019年9月26日（木）］

三味線音楽の名曲・大曲を一曲丸々たっぷりお聴きいただきます。義太夫「熊谷陣屋」は、源氏方武将の熊谷次郎直実やその息子小次郎、若武者平敦盛、若者二人の母、それぞれの苦悩を浮き彫りにする話。豊竹呂太夫と鶴澤清介が渾身の演奏で魅せます。約80分の大曲ゆえに一人で語り通して演奏される機会は少なく、たいへん貴重な作品です。

紀尾井たっぷり名曲 2

長唄勧進帳 ［公演日 2019年12月13日（金）］

人々を魅了し続けてきた傑作に注目。長唄「勧進帳」は、能『安宅』をもとに歌舞伎化され、舞踊としても音楽としても人気が高い作品です。当代きっての名人で長唄三味線・人間国宝の杵屋勝国と、歌舞伎の第一線で活躍する唄方・杵屋勝四郎が大曲を務めます。

紀尾井たっぷり名曲 4

伊賀越道中双六 岡崎の段 ［公演日 2022年2月27日（日）］

「伊賀越道中双六」は「赤穂浪士」「曽我兄弟仇討」とあわせて天下三大仇討の一つ。「沼津の段」が有名ですが、「岡崎の段」は、山場の一段です。助太刀の政右衛門は雪の夜岡崎で関所を破り、旧師に救われます。そこへ別れた女房お谷が乳呑子をつれて門までたどりつきますが、政右衛門は義のためにわが子を刺し殺す……。子殺しの悲劇を描いた文楽屈指の難曲を、確かな技と感性が魅力の竹本千歳太夫と豊澤富助が語りきります。

すでにご視聴可能な28公演

有料配信

名人の至芸をきく会	6公演
邦楽 華麗なる技	12公演
江戸三味線音楽の変遷	10公演

料金 各動画（1公演ごとの個別購入）

［3日間］ 500円（期間中何度でも視聴可能）

［14日間］1,000円（期間中何度でも視聴可能）

※ご視聴には「観劇三昧」のアカウント登録（無料）が必要です。詳細はウェブサイトにて。

紀尾井だより#156 4頁【新シリーズ「邦楽 明日への扉」に寄せて】の本文中（2段目19行目）にて「佐喜さんの高祖父」と記載いたしましたが、「佐喜さんの曽祖父」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

邦楽名曲解体新書

私のおすすめこの一曲［最終回］

一中節『辰巳の四季』

お話／都 了中さん

京都で創始し江戸へ歌舞伎音楽として発展

一中節は江戸時代、文化が豊かに花開いた元禄の頃に誕生しました。創始したのは京都の明福寺に生まれた僧侶で、還俗（一度出家した者が俗人に戻ること）して「都一中」と名乗り、三味線を伴奏に物語を語り始めました。当時は同世代に尾形光琳、竹本義太夫、近松門左衛門などがいて、特に上方文化が栄えていた時代でしたが、京都生まれの一中節は初代の時点ですぐに江戸に進出しています。そして大ヒットした歌舞伎の演目『お夏笠物狂』や『夕霞浅間嶽』などの演奏をしたことから一中節にも人気が集まり、「一中節の稽古本が無い家は無い」と言われるほどに皆が楽しむ音楽になりました。

一中節の曲調は京都が持つ優雅さと、江戸の粋が融合されているように思います。優美で繊細であり、歌舞伎役者が映えるようなダイナミックな演奏とは異なることから、やがて歌舞伎音楽から次第に離れ、純粋に音楽を楽しむ芸能となって今に至ります。

宇治の自然の美しさと人々の日常を描く

今回おすすめする『辰巳の四季』は初代都一中の作曲で、都の辰巳（東南）の方角、宇治の美しい自然や人々の日常が絵巻物のように描かれ、何気ない日々がいつまでも続くことを願った曲です。三味線の旋律や声の節回しなど、一中節の全ての要素が集約していると言われており、一中節を習い始めた人は必ずといってよいほど稽古する曲でしょう。

曲の冒頭「春霞　たなびきにけり久方の　月の桂の花や咲く」は紀貫之の和歌からとっています。紀貫之は古今和歌集の序文で「和歌の心を理解してくれる未来の人は、遠い昔を敬い、『古今和歌集』が編まれた今この時を想い慕ってくれるだろう」と書いていますが、それから約八百年後の都一中も、紀貫之に対するオマージュとしてこの和歌を冒頭に入れたのでしょう。令和の今、私たちは『辰巳の四季』を通じて元禄の時代に思いを馳せられるわけですから、一中の願いは達成できているのではないでしょうか。

曲の最後では「四海波風静かにて　治まる国こそ　久しけれ」と語られていますが、これは世界中で、戦争や災害のない平和な世がいつまでも続きますように、と願ったものです。当時は大地震や富士山の噴火などがあり、都一中はそうした災害を見聞きした経験から、この言葉に願いを込めたのかもしれません。昨今の世界情勢などを見ると、人々の何気ない日常が実はとても大切なことなんだと気づかされますよね。

今、一中節を知る人は少なくなりましたが、私は逆に、そこに可能性を見出したいと思っています。日本の伝統音楽だと思わないで聴いてみてはいかがでしょうか。一中節に限らず日本の伝統音楽は「日本の文化なのに、何を歌っているのかわからない…」と敬遠されがちですが、外国の音楽だと思って聴いたら真っさらな気持ちで聴けて、音色や言葉の美しさにかえって気づくかもしれません。私はそういうアプローチの仕方も、伝統音楽のすそ野を広げる一つで良いと思っています。

取材・文・イラスト／尾花 知美（月刊『江戸楽』編集部）

都 了中

幼少の頃より、日本の伝統音楽である一中節を父、及び先代都一中について稽古を始める。1997年都了中の名を許される。声楽を芹沢文子、長唄を芳村金秀に師事。2002年福井県武生国際音楽祭に招待される。2006年9月～2007年3月、アジアン・カルチュラル・カウンシル（ACC）のフェローシッププログラムにてニューヨークに滞在し研修を行う。定期的に演奏会「都了中の会」を主催。2015年国立劇場主催「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」に選出される。2019年一中節都派 家元を継承。特定非営利活動法人都一中音楽文化研究所理事。演奏会・舞踊会において浄瑠璃方を務め、国内の他に海外（ベルリン・ニューヨーク・サンクトペテルブルク・上海など）での公演にも出演。演奏活動の他、浄瑠璃指導、講演など一中節の発展に務めている。

クラシック音楽のテーマに基づく3つの話

プロコフィエフをめぐる3話

2023年はロシアの大作曲家プロコフィエフ（1891–1953）の没後70年にあたります。ちなみに彼は現ウクライナのドネツク州の生まれ。しかも独裁者スターリンと同日に亡くなるなど、話題に事欠かない人物でもあります。今回はそんな大家にまつわるお話を。

1 プロコフィエフと日本

プロコフィエフは、日本に来た史上初の大作曲家です。彼は1918年、ロシア革命を機に国を離れ、アメリカに向かいました。これ実は当局の許可を得てのこと。まず5月7日にモスクワでシベリア鉄道に乗り、さらにウラジオストクから船で敦賀へ渡って、6月1日東京に到着しました。ここから南米経由で渡米する計画でしたが、船は出たばかり。そこで次便が出る8月2日まで日本に滞在しました。主に東京と横浜にいながら、京都、大阪、奈良、軽井沢、箱根を訪れ、7月6、7日に東京、9日に横浜でピアノ・リサイタルも開催。自作のほかショパンやシューマンの作品を演奏しました。何しろ時は大正時代。聴衆は少なかった模様ですが、今考えればもったいない話です。ただしこの間に小説（その中の『彷徨える塔』は、エッフェル塔が突然歩き出すというトンデモ話）も執筆していますし、関西で聴いた「越後獅子」が後の名作「ピアノ協奏曲第3番」のモティーフになるなど、滞在も無駄ではなかったようです。

2 時代のめぐり合わせが悪い？

かくして渡米した彼ですが、何かと不首尾だったため、1920年ヨーロッパに移り、主にパリで暮らしました。それでも成功には至らず、徐々に当時のソ連に戻るようになります。1932年にはほぼ帰国し、1936年には家族ともども完全復帰しました。しかし以前話を聞いたロシアの指揮者ラザレフはこう語っていました。

「彼にはNo.1になるという野心がありました。ところが進出を図ったヨーロッパは、ストラヴィンスキーの帝国になっていました。No.1ピアニストを目指そうとしても、既にラフマニノフがいる。ただ、2人はソ連との関係を断っていましたが、プロコフィエフは、時おり祖国に戻り、歓迎を受けていました。そこで国民的英雄、すなわちNo.1として迎えられるとの期待を胸に帰国します。しかし今度は後輩ショスタコーヴィチとの闘いが始まりました。」

なおプロコフィエフは最後に、悪化していたストラヴィンスキー、ショスタコーヴィチ両人との友好関係を回復しています。

3 名手あってのチェロとの関わり

とはいえ、バレエ音楽《ロメオとジュリエット》、《ピーターと狼》、交響曲第5番など、現在親しまれている作品の多くが帰国後の所産。ソ連で強要された明快な音楽が逆に合っていたのか？円熟期と重なったからなのか？何とも微妙なところです。

そうした中、帰国したがゆえに書かれたのがチェロ絡みの傑作です。大きな要因は同国の名手ロストロポーヴィチの存在。その凄演を聴いてチェロへの関心を深めた彼は、1949年、ロストロポーヴィチの協力を得て、生涯唯一のチェロ・ソナタを完成しました。さらに最晩年の1952年、同様の協力のもと、既作の協奏曲を改編した「チェロと管弦楽のための交響的協奏曲」を完成。共にロストロポーヴィチが初演し、同楽器の重要レパートリーとなりました。他に企図された作品は未完に終わったものの、名手なくして2つの名作が生まれなかったのは確かです。

3月の「紀尾井 明日への扉」で香月麗が演奏するプロコフィエフのチェロ・ソナタも、こうした背景を知って聴くと、より理解が深まるかもしれません。

文／柴田 克彦（音楽評論家）

プロコフィエフとロストロポーヴィチ

紀尾井 明日への扉

第34回 香月 麗（チェロ）

3/3（金）19:00

［共演］
鈴木慎崇（ピアノ）

［曲目］
ドビュッシー　：チェロ・ソナタ ニ短調 L.135
プロコフィエフ　：チェロ・ソナタ ハ長調 op.119
［プロコフィエフ没後70年記念］
メンデルスゾーン：無言歌ニ長調 op.109
メンデルスゾーン：チェロ・ソナタ第2番ニ長調 op.58

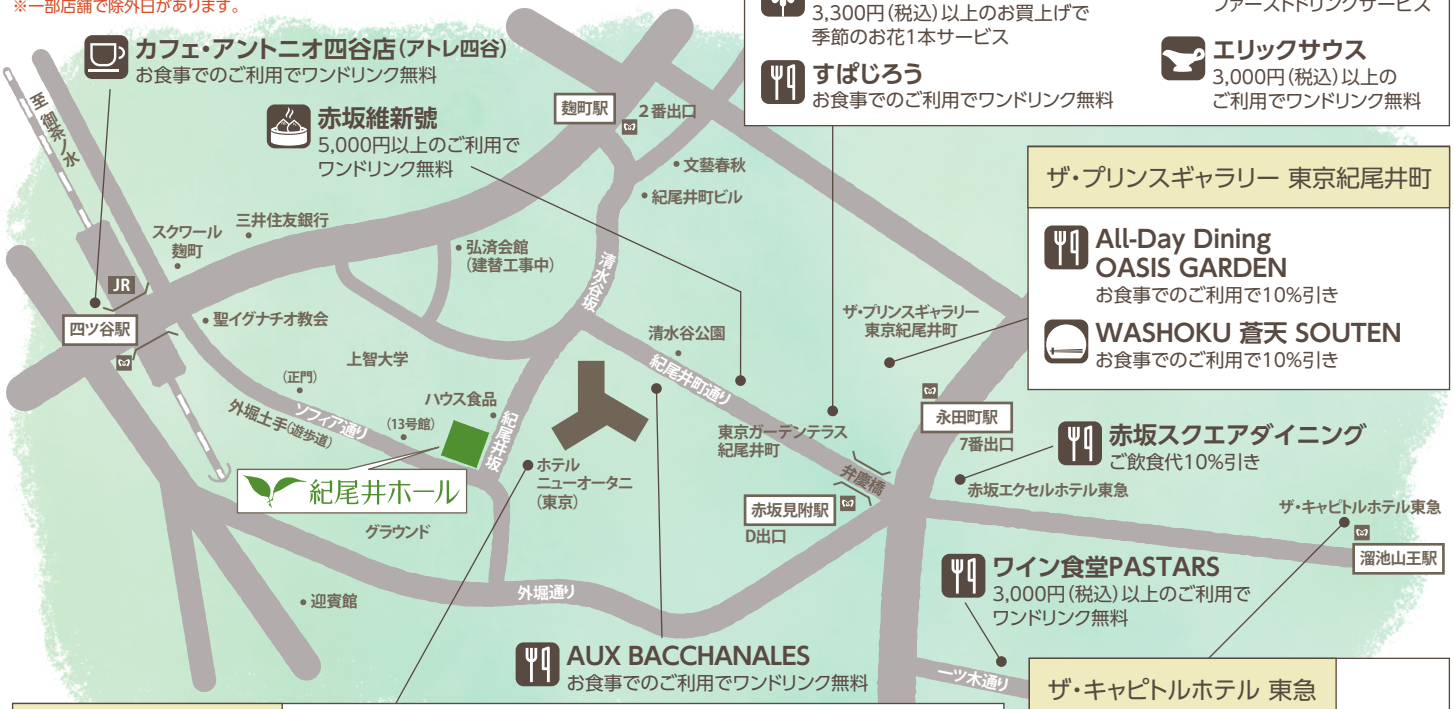
※公演開催についての最新情報は紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

公演当日のチケット提示でおトクなサービスを受けられます

ご協力店舗のご紹介

当財団主催公演をはじめ紀尾井ホールで開催されるすべての公演で、開催当日のチケット（公演後は半券）を提示すると、お店ごとのご利用条件に沿った各種サービスを受けられます（ただしご本人限り）。

※一部店舗で除外日があります。



東京ガーデンテラス紀尾井町

- **レ・ミルフォイユ・ドゥ・リベルテ**
  3,300円（税込）以上のお買上げで季節のお花1本サービス
- **すぱじろう**
  お食事でのご利用でワンドリンク無料
- **紀尾井町 くろげ**
  お食事でのご利用でファーストドリンクサービス
- **エリックサウス**
  3,000円（税込）以上のご利用でワンドリンク無料

ザ・プリンスギャラリー 東京紀尾井町

- **All-Day Dining OASIS GARDEN**
  お食事でのご利用で10%引き
- **WASHOKU 蒼天 SOUTEN**
  お食事でのご利用で10%引き
- **赤坂スクエアダイニング**
  ご飲食代10%引き

ホテル ニューオータニ（東京）

- **鉄板焼 石心亭/清泉亭/もみじ亭**
  お食事をされた方にワンドリンクサービス
- **トレーダーヴィックス 東京**
  お食事をされた方にワンドリンクサービス
- **ティー&カクテル ガーデンラウンジ**
  お食事をされた方にワンドリンクサービス
- **料亭 千羽鶴**
  お食事をされた方にワンドリンクサービス
- **麺処 NAKAJIMA**
  ディナーコース料理をご注文の方にワンドリンクサービス
- **日本料理 KATO'S DINING BAR**
  コース料理をご注文の方にワンドリンクサービス
- **中国料理 大観苑**
  コース料理をご注文の方にワンドリンクサービス
- **西洋料理 ベッラ・ヴィスタ**
  お食事をされた方にワンドリンクサービス
- **VIEW & DINING THE SKY**
  お食事をされた方にワンドリンクサービス
- **ビュッフェレストラン タワーレストラン**
  お食事をされた方にワンドリンクサービス
- **ステーキハウス RIBROOM**
  お食事をされた方にワンドリンクサービス

ザ・キャピトルホテル 東急

- **オールデイダイニング「ORIGAMI」**
  お食事をされた方にワンドリンクサービス
- **日本料理「水簾」**
  お食事をされた方にワンドリンクサービス
- **中国料理「星ヶ岡」**
  お食事をされた方にワンドリンクサービス
- **ザ・キャピトル バー**
  テーブルチャージ（おひとり様570円）無料

近隣ご協力店舗でのこのサービスの詳細はこちら➡

紀尾井ホールにご支援いただいている企業および個人の方々です

紀尾井サポートシステム会員（五十音順・「株式会社」等表記及び敬称略）

《特別協賛会員》 日鉄ソリューションズ／三井不動産／三菱商事／三菱地所

《みやび会員》 伊藤忠商事／大島造船所／KDDI／商船三井／菅原／住友商事／日本郵船／丸紅／三井住友銀行／三井物産／三井不動産／三菱商事／三菱地所／メタルワン　ほか匿名2社

《ひびき会員》 オカムラ／高砂熱学工業／竹中工務店／東京きらぼしフィナンシャルグループ／山下設計

《みどり会員》 青鬼運送／赤坂維新號／今治造船／ヴォートル／エーケーディ／NTTドコモ／荏原冷熱システム／鹿島建設／ザ・キャピトルホテル 東急／三協／清水建設／上智大学／西武リアルティソリューションズ／大成建設／千代田商事／テェイスト・ライフ／東芝ライテック／永田音響設計／ニュー・オータニ／ハウス食品グループ本社／パナソニック／三井住友信託銀行／三菱UFJ銀行／三菱UFJ信託銀行／三菱UFJモルガン・スタンレー証券／ミュージション／明治座舞台／ヤマハサウンドシステム／ワークショップ21

《あおい会員》 青木陽介／淺見 恵／石崎智代／磯部治生／伊藤眞理子／井上善雄／岩城宏斗司／馬屋原貴行／大内裕子／大垣尚司／大久保なほ子／太田清史／岡田章一／小川 保／小樽茂稔／糟谷敏秀／片山國正／片山能輔／加藤巻恵／神谷昌孝／川口祥代／菊池恒雄／木谷 昭／楠野貞夫／久保祐子／栗山信子／河野紗妃／小西美由紀／斎藤公善／坂詰貴司／佐久間庸行／佐部いく子／潮崎通康／清水 正／清水多美子／清水康子／白土英明／末岡明武／鈴木順一／鈴木 亮／高下謹壱／武上由佳／田中 進／外山雄三／内藤美奈子／内藤基之／中塚一雄／中西達郎／中村健司／名取正夫／西村剋美／西村 清／原田清朗／日原洋文／北條哲也／堀川将史／牧本惠美子／松枝 力／松本美恵／丸井正樹／簑輪永世／宮島正次／宮武悦子／宮原 薫／宮本信幸／陸田 実／村上喜代次／持留宗一郎／八木一夫／八木晶子／山内寿実／横手 聡／渡辺弘次

ほか匿名39名　計223口　（2022年12月1日現在）

特別支援会員（五十音順・「株式会社」等表記略）

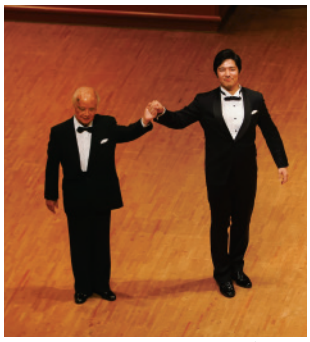
アステック入江／五十鈴／NS建材薄板／NSユナイテッド海運／NSユナイテッド内航海運／エヌエスリース／エヌテック／王子製鉄／大阪製鐵／九築工業／草野産業／黒崎播磨／合同製鐵／小松シヤリング／山九／産業振興／三晃金属工業／サンユウ／三洋海運／山陽特殊製鋼／ジオスター／新日本電工／スガテック／大同特殊鋼／大和製罐／高砂鐵工／高田工業所／鶴見鋼管／DNPエリオ／テツゲン／電機資材／東海鋼材工業／東邦シートフレーム／トピー工業／日亜鋼業／日鉄SGワイヤ／日鉄エンジニアリング／日鉄片倉鋼管／日鉄環境／日鉄ケミカル&マテリアル／日鉄建材／日鉄鋼管／日鉄鉱業／日鉄工材／日鉄鋼線／日鉄鋼板／日鉄興和不動産／日鉄スチール／日鉄ステンレス／日鉄ステンレス鋼管／日鉄精圧品／日鉄精鋼／日鉄精密加工／日鉄総研／日鉄ソリューションズ／日鉄テクノロジー／日鉄テックスエンジ／日鉄ドラム／日鉄物産／日鉄物流／日鉄物流君津／日鉄物流八幡／日鉄保険サービス／日鉄ボルテン／日鉄溶接工業／日本金属／日本触媒／濱田重工／富士鉄鋼センター／不動テトラ／幕張テクノガーデン／松菱金属工業／三島光産／宮崎精鋼／吉川工業／ワコースチール日本製鉄　（2022年12月1日現在）

紀尾井だより 1〜2月号 2023年(令和5年)1月1日発行【隔月発行・通巻157号】●企画・編集発行・公益財団法人 日本製鉄文化財団 内田勇人 ●編集・デザイン・印刷・株式会社 エイチ・アンド・アール プロモーション

フォトレポート 最近の公演から ～ お客様アンケートより ～

10.5(水) 大西宇宙&小林道夫 デュオ・リサイタル

- 歌曲を初めて生で聴くことができ、感動した。ハイネの詩とシューマンの音楽の深さと皮肉、面白みがわかった。
- 小林氏のピアノと大西氏の声の響きが紀尾井ホールの音響と合わさって素晴らしい演奏でした。
- 若いバリトン歌手と、89歳にもなるピアニストのコラボが新鮮。
- 歌手とピアノの見事な融合で、何と素晴らしい演奏会だったことでしょう。お二人のお互いを思う優しさが、今夜の最高の音楽を創り出したのだと思います。



© ヒダキトモコ

10.28(金) マリオ・ブルネロのバッハ 無伴奏リサイタル

- 3時間公演でしたが、休憩時間で時間の経過を知らされた感じで、あっという間のひと時だった気がします。一挙にこれだけの演奏を聴かせてくださったブルネロさんに、感謝&お疲れさまとお伝えしたいです。
- 余韻がいつまでも残っています。パルティータをチェロで弾けるなんて!プログラム、内容ともに素晴らしかったです。
- ピッコロ・チェロの響きとチェロの響きに感動しました。シャコンヌ最高です。

2022年12月28日(水)29日(木)に、クラシック倶楽部(NHKBSプレミアム 午前5:00〜5:55)で放送される予定です。 © 堀田力丸

11.6(日) マクシム・エメリャニチェフ 3種鍵盤 モーツァルト・リサイタル

- モーツァルトの音楽を3台のピアノで弾き分けるという試みが興味深く、演奏も素晴らしかったです。
- エメリャニチェフ氏の演奏のテンポが大好きで引き込まれました。時折左手で指揮されていたのも印象的でした。これから世界中でますます活躍されると思います。音響も素晴らしかったので毎年演奏してほしいです。
- 今をときめくエメリャニチェフのモーツァルトを3種の楽器で聴き比べできる最高の機会でした。

© 武藤章

11.18(金)・19(土) イゴール・レヴィット ベートーヴェン ピアノ・ソナタ・サイクル・イン・ジャパン Ⅰ・Ⅱ

- 力強いタッチと、独特の繊細さに惹き込まれました。
- 初日のヴァルトシュタインがいちばん素晴らしかったと思います。次回、シリーズの後半も楽しみにしています。
- 両日聴きました。今から来年のコンサートを想像するとワクワクしてきます。
- 卓抜したスキル、知性的な作品の解釈、素晴らしい演奏で息を呑むようでした。
- 想像以上の素晴らしい演奏でした。ホールも美しく心地よかった。
- レヴィットらしい弱音の美しさ、強弱のコントラスト。新しいベートーヴェン像を聴かせてもらった。

© 堀田力丸

今号の表紙 『締め太鼓とシンビジウム』

［協力］ 花／ hanadouraku
締め太鼓／岡田屋布施

豪華な印象が強い洋ランの仲間でありながら、やさしい色合いのものが多いシンビジウムは「飾らない心」「素朴」などの花言葉がついています。一方、その美しい花姿から「高貴な美人」とも。朱色の紐できゅっと締め上げられ蒔絵も美しい締め太鼓が新年らしさを醸し、周りを華やかに飾るシンビジウム。まさに和洋のコラボレーションです。

Okadaya Fuse

岡田屋布施 表紙を飾りました!

創業天保6年(1835年)以来、浅草田原町で鳴物・太鼓・神輿の製造・修理、また神仏具などを数多く販売しております。神事や仏事そして郷土芸能に至るまで、日本の伝統文化にまつわる商品は、ぜひ岡田屋布施へお立ち寄りください。

〒111-0034 東京都台東区雷門1-16-5 電話03-3841-1867 定休日:水曜、年末年始

公式 SNS で最新情報配信中

紀尾井ホール　紀尾井ホール 室内管弦楽団

チケットのお申込み

紀尾井ホールウェブチケット https://kioihall.jp/tickets

紀尾井ホール

公益財団法人 日本製鉄文化財団

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町6番5号
TEL.03-5276-4500(代表) FAX.03-5276-4527 https://kioihall.jp